

テーマ

素直な心をもった都祁の子を育てよう！

目標

素直な心をもった都祁中学校区の児童・生徒の育成を目指し、目標に向けてなかまと協力して頑張る、相手を思いやる、がまんする、関心をもつ、感動する、感謝する子どもに育てていく。

今年度の取組紹介

素直な心をもった都祁中学校区の児童生徒の育成を目指して、今年度も数々の取組を行いました。特に、日々の登下校の見守り活動や年2回の都祁地区全体で取り組む特別見守り活動は、児童生徒に登下校の場面だけに限らず、「地域の皆さんに守られている。」という安心感を与える活動となっています。



11月に実施した第2回目の特別見守り活動は、雪混じり冷たい雨の日になってしまいましたが、そんな中でも児童生徒のために傘を差しながら多くの方に見守っていただきました。

また、地域の方々による読み聞かせを中心とした、読書活動にも力を入れました。読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけるために不可欠なものです。ボランティアの方々による読み聞かせは、児童を本の世界へ導き、目を輝かせながら本を選ぶ姿が見られました。素直な心を持った子供たちの育成に、大きく貢献する事業となりました。



今年度のまとめ

今年度本校区の取組は上記の「見守り活動」「読み聞かせを中心とした読書活動」以外に、「環境美化作業」「体力向上の取組（水泳教室開催、小学生県陸上大会・中学生部活動対外試合参加）」「地域との交流事業」などを行いました。いずれの事業も、コーディネーターさんを中心に多くのボランティアの皆さんにご協力いただき、それぞれの目的を達成することができました。都祁地区の児童生徒は、様々な活動に地域の方々がいつも目を掛け、気を配っていただいていることを実感し、地域のすばらしさを知り、地域の一員としての自覚も高まってきました。

来年度に向けて

地域教育協議会の活動及び5つの運営委員会の活動は、それぞれ非常に充実したものになりました。しかし、それぞれの学校や運営委員会単位での活動が中心となってしまう、校区としての有機的なつながりが弱いことが課題としてあげられます。来年度は、縦（小中）と横（小小）や都祁地区全体として取り組める事業を進めていきたいと考えています。

テーマ

ガンバレ！ 都祁中 Family!

目標

地域の方々との交流を図りながら、地域を愛する心を育てるとともに、諸活動を通して豊かな心とたくましい体力の向上を図り、意欲的に活動する中で生きていく力を培い、感謝する気持ちを大切にできる生徒を育成する。

今年度の取組紹介

今年度、地域交流会の形式を大きく変更し、3回の交流会を実施しました。

Part. 1は「趣味に学ぶ」と題し、都祁地区に古くから伝わる「題目立」や「太鼓踊り」を守り続けておられる皆さんや、公民館などで和楽器の演奏や手話・要約筆記に取り組んでおられる方など、13講座30名を超える講師の皆さんに指導していただきました。生徒たちは、伝統を守り続けることの大切さと難しさを理解したり、生涯学び続けることが人生を豊かにすることを学び取ることができました。



Part. 2は「都祁中ハローワーク」で、職業についてのお話を聞かせていただきました。これも13講座開設することができ、どの講座も本校の卒業生や都祁地区でお仕事をされている方に来ていただくことができました。身近な地域で活躍されている様々な職業のお話を聞き、自らの将来への夢と結びつけることができたようです。



Part. 3は「学びの道」で、1年後に進路選択を控えた中学2年生が、本校卒業生の高校3年生や大学4回生から、進路選択や将来の夢についての具体的な話を聞きました。身近な先輩から、自らの進路選択の話や、実際の高校や大学での生活、将来の夢について話を聞き、より具体的な将来像を描けたようです。

今年度のまとめ

上記の地域交流会や「雅楽教室」など、地域の方々に来校いただき、地域の方々の力によって充実した取組となりました。地域の方々とのふれあう中で、地域社会の一員としての自覚も高まってきました。生徒たちが地域から守られる存在から、地域を担う存在へと成長できるよう取組を進めていきたいと考えます。

来年度に向けて

今年度生徒が校外に出向く活動は、地域のお年寄り宅を訪問する「おじいちゃん、おばあちゃんの知恵袋」だけでした。地域に出向き、地域の中で活動することで、地域の一員としての自覚がより高まります。来年度は、都祁地区内での「職場体験学習」や、通学路の点検・清掃活動などに取り組んでいきたいと思えます。

テーマ

ふれあい、輝く並松っ子

目標

地域とのふれあいを通して、並松小学校の子どもたちの
健やかな成長をめざし、知・徳・体のさらなる向上に取り組む。

今年度の取組紹介

○地域との交流（学習支援活動を中心として）

地域の伝統食として、今も地域の神社にお供えされている笹と萱で包んだちまきを、本年度も地域のボランティアの方に6年生と保護者を対象に指導していただきました。ちまきは、子どもが元気に育ったお祝いやこれからも元気に育ちますようにとの願いが込められ、つきたての餅だんごを地域に自生する笹と、雌萱で包み、藺草で巻いて作られます。自然豊かな地域に住んでいながら萱や藺草を知らなかった子どもも多く、伝統的な食文化にふれ、先人の知恵やちまきに込められた願いを知ることができました。



本年度は新たに「ふるさと学習」を行いました。ふるさとを知り、探索し、愛着を持たせる、ふるさとに誇りを持たせる取り組みを行いました。ふるさとウォークでは、三陵墓古墳・小治田安麻呂墓・水分神社を巡り、地域の方々にお話をして頂きました。今まで何気なく見ていたものが、歴史を知ることによっていつもと違って見え、また、普段入れないところまで案内して頂き貴重な体験をしました。この活動を通して、地域・ふるさとの方に愛され、慈しまれて育った子ども達は、ふるさとの良さを体感し、ふるさとを受け継ぐ担い手になってくれるだろうと考えます。

今年度のまとめ

年間計画に基づき、地域の方々の指導や支援を得た様々な活動に積極的に取り組みました。これらの学習支援活動・登下校の見守り活動・環境整備活動が定着し、広がりを見せています。職員の意欲的な指導、保護者並びに地域の方々の心温かい支援に支えられ、教科・領域の学習にとどまらないさまざまな教育活動を実践できました。これらのことが、子どもたちに故郷を愛する心を育み、良き社会人として自立できる基礎を築いていくと考えます。

来年度に向けて

学校自己評価のために実施した児童・保護者のアンケートにおいても、「地域の方々に教えていただいた勉強は楽しかった。」とのよい評価が得られています。本校では、地域で子どもたちを「叱って下さい。」「仕込んで下さい。」「育てて下さい。」とお願いしています。今後も、地域の多くの方々の力を借りながら、子どもたちが人と人との関わりを大切にして、たくましく生き抜いていく力を培っていきたいと考えています。

今後、情報発信・情報交換、子どもたちに継続的に関わっていただける人材の確保、学校や地域の担当者が代わっても引き続き支援が得られるような組織の更なる強化が必要と考えます。

テーマ

瞳きらきら 心うるおう都祁の子の育成

目標

地域と連携し、さまざまな体験や人と人とのつながりを通して、主体的に考え・表現できる児童を育成する。

今年度の取組紹介

○ 栽培体験学習

自然や地域とのかかわりを深めるために、各学年で栽培体験学習を実施しました。5年生の米作り体験(田植え、稲刈り)をはじめ、4年生の土づくり・水菜の栽培、3年生のケナフの栽培を通して「はがき」「炭づくり」、2年生では白菜の植え付け、1年生の焼き芋大会(植え付けから収穫)6年生では郷土料理など、地域の農業について体験することができました。また、観察したことや経験したことを絵や作文にまとめたり、お礼の手紙を書いて手渡したりしました。自分の思いや考えを文章に書くことを通して、表現力や創造力を養うことができました。



○ 昔の遊びを教えてもらおう会

子どもたちのおじいさん・おばあさん、地域のお年寄りの方々にゲストティーチャーに招き、いろいろな昔の遊びについて教えてもらいました。お手玉、こま回し、あやとり、おはじき、まりつき、かるたなどを地域のお年寄りの方といっしょに遊び、交流を図ることができました。



今年度のまとめ

学校支援コーディネーターと学校が事前の打ち合わせを行うことで、それぞれの活動がスムーズに実施できました。地域の方々が熱心に協力していただき、子どもたちとの交流や触れ合いを深めることができました。また、それぞれの活動後にお礼の手紙を書くことで、子どもたちの地域の方々への感謝の気持ちを伝えることができたとともに、地域の方からのお返しの手紙をいただくことで、子どもたちの次への活動意欲にもつながりました。

最後にこの活動を通して、地域を愛する心を育み、主体的に考え、表現する子どもの育成に努めることができました。

来年度に向けて

次年度は、教科学習や学校行事との関連をより綿密に図りながら、さらに効果的な活動を取り入れていきたいと考えています。また、地域の方々に協力していただいている分、すずらん苑の訪問のように、地域に働きかけていく活動をもっと取り入れていきたいと思えます。

テーマ

育てよう吐山っ子 **はきはき・やさしく・たくましく**

目標

地域の教育力を生かした活動を通して、地域と共にあり、笑顔あふれる楽しい学校づくりに取り組む。

今年度の取組紹介

【全校キャンプ『吐山げんき村』】

9月30日から10月4日までの4泊5日、奈良県立野外活動センターで全校キャンプ『吐山げんき村』を行いました。

この間、3年から6年生は、センターから登校して午前中は授業をしました。午後は、1、2年生も一緒にセンターに移動して縦割り班でおみこしを制作しました。放課後子ども教室や地域の食材を使った「森のレストラン」が開かれました。キャンプファイヤーには、保護者が家族揃って参加してくれました。

最終日には、来賓や保護者、地域の方々の前で、手作りみこしの出来栄やそれぞれの体験を発表しました。

地域の方々の支援を受けて児童は「自分たちの力で、5日間を楽しく過ごしぬこう！」の目標を達成することができました。



10月1日（火）『森のレストラン』



10月4日（金）『吐山げんき村』記念撮影

今年度のまとめ

都祁中校区協議会関係では、読書タイムや水泳教室、親子整美作業、下校時の見守り活動を行いました。吐山小学校運営委員会としては、吐山太鼓踊りや教育講演会、吐山っ子理科教室を継続しました。その上、奈良市全体へ視野を広げる『奈良市たんけん地域学習』と、本校の特色を生かした全校キャンプ『吐山げんき村』に取り組みました。

『げんき村』の取組では、登下校の引率から夕食献立作り、買い出し、調理、宿泊見守りまで、地域の方々に支援をしていただきました。児童にとっては、もしものときの集団宿泊訓練としても意味ある体験ができました。

来年度に向けて

本校創立140周年の節目を迎えることから、地域の方々との連携事業を一層発展させ、地域の人材や伝統を生かした特色ある教育活動を充実させたいと考えています。

テーマ

学び・ふれあい六郷の里

目標

豊かな自然を生かした活動や、地域の人々との交流を通して、ふるさとを愛する豊かな心と強い体を育み、基礎学力の向上を図る教育を充実させる。

今年度の取組紹介

○米作り体験教室

本年度も地域の農家の方々の協力のもと、5年生において米作り体験を実施しました。学校のすぐ近くの田をお借りして、田植えから稲刈り、脱穀までを体験することができました。本年度は、整然と田植えを行ったおかげで、120kgほどのお米を収穫することができました。獲れたお米は家庭科の実習で炊いて味わったり、11月の六小まつりの折りに、地域の方にも差し上げたりすることができました。この活動を通して、生産する苦労や喜び、勤労の大切さ、地域の方々とのふれ合いの大切さを学ぶことができました。



○ふれ合い音楽交流会（六小まつり）

秋の六小まつりでは、2学期初めから練習を重ねてきた合唱や合奏を、保護者を始め地域の方々にも聞いていただくことができました。また、その折に6年生が室町文化体験として行った生け花の作品も会場に飾り、参加者の皆さんから好評を博しました。音楽発表の後で、マリンバコンサートを開催し、生の迫力ある音楽を鑑賞することができ、保護者・地域の皆さんにも喜んでいただくことができました。



今年度のまとめ

米作りや野菜作りなどの自然体験を通して、子ども達は、自然の豊かさに気づき、また、生産する喜びや勤労の大切さを学ぶことができました。自分たちが育てたものを食したときの喜びは大きいものでした。六小まつりの音楽交流会では、地域の方々にも来ていただき、日頃の小学校の取り組みを紹介するよい機会となり、子どもも大人もいっしょに歌い、一体となる音楽会を開くことができました。地域の学習や学校の環境整備においても地域の方々の協力を得、子ども達と一緒に活動する中で、人とふれ合うことの大切さや、周りの人に対して感謝する心を育むことができました。

来年度に向けて

地域の産業や文化、歴史に目を向けた学習をさらに推し進めるために、それらのことに精通した地域の人材の掘り起こしや活用を今まで以上に行う必要があります。地域の方々とのふれ合いや体験活動を通して、生まれ育った地域を愛する心を育んでいきたいと考えています。今まで以上にコーディネーターとの連携を密にしていこうと考えます。